

※ 本記事はブログ記事として提供しています。その範疇のものとして捉えて下さい。

「題材学習」と「単元学習」と「主題」の違い、わかりますか？

生单・作業⇒「単元」、国・算、音・体・図⇒「題材」、自活⇒「主題」という機械的な分け方ではありません

タイトルについて誰かが教えてくれることってあまりないよなあ…と。内容は少し難しいのですが、指導案を書く時にきっと²役立つハズ。お付き合いください。

I. 「題材学習」とは？

まずは根柢となる資料を見てみます。「中教審答申「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめについて（報告）」P.26注釈」に以下の様に小難しく書かれています。

『題材とは、教科における系統性を背景にもった学習活動の材料であり、単元を構成する一つの要素をさす。』
『ただし、題材は単元の一要素ではあるが、題材学習は単元化された学び（単元学習）の一部分ではなく、一つ一つの学びの材料を取り上げ、その材料との関わりを通して知識及び技能等の資質・能力の育成を目指す学びの目標及び内容等を計画するものである。』

読み解けましたでしょうか？行政文章は難しいのですよね…。ポイントは「要素」と「部分」という言葉の理解です。
「要素」ということは「側面」という言葉にとても近いですよね。「哲学的な要素がある」とか「数学的な要素がある」とか。一つめのパラグラフの「題材は単元を構成する1つの要素」を読み解くと、「題材」は「単元」を構成するという側面もありますよということです。

進んで2つ目のパラグラフ。『題材学習は単元学習の一部ではない』です。「部分（一部）」という言葉は「全体を構成する一つ」という意味ですよね。例えば「ロース肉は牛肉の一部」とか。なので、「題材学習は単元学習の一部ではない」は「題材学習を合わせたところで、単元学習になるという訳ではないですよ」という意味です。

もう一つ、大切な事は「題材」と「教材」という言葉の住み分けです。「題材」は学ぶ目標や内容のタイトル・テーマ、要するに『お題』を示すのに対して、「教材」は、授業や学習に用いる学習素材の事を指します。例えば、教科別の指導・音楽で「パプリカ」を扱うとしたら、「パプリカ」という曲は「教材」であって、学ぶ目標や内容は例えば「8ビートのリズムに乗せて踊る」とかになるので、題材名を付ける際には、

⇒ 題材名『パプリカ』 ⇒ 題材名『8ビートのリズムに合わせたダンス』

となります。「えっ、マヂ！？今まで間違って題材名付けた！」って人も結構居たのでは？「今日の授業で子どもに学んで欲しい内容のお題は…」の「題材」名なので、基本的には内容を表しますし、順番的にも①題材の選定が行われてから②題材にあった教材の選定が行われることになります。

2. 「単元学習」とは？

次に、「単元学習」とは何かについて見ていきます。出典は同じです。

『単元とは、各教科等において、一定の目標や主題を中心として組織された学習内容の有機的なまとまりのことであり、単元の構成は、教育課程編成の一環として行われる。教科書を含む教材の章立て等も、こうした単元の構成をイメージしながら構成されている。』
『また、単元ではなく題材といった呼び方をする場合や、単元の内容のまとまりの大きさに応じて、大単元、小単元といった呼び方を用いる場合等もある。』
『従来、単元については、実生活に起こる問題を解決する経験のまとまりを内容とする経験単元と、科

学・学問の基礎を子供の発達過程に即して体系的に教えようとする教材単元という二つの考え方方が提起されてきた。現在、各学校において実施されている単元については、各教科等の系統的な内容を扱いつつ、その中の学習のまとまりを子供にとって意味ある学びにしようとする様々な工夫が展開されている。

「単元」の定義の方がモヤッとしているんですよね。なので、「題材学習」の理解をしっかりとこれから上記の単元学習の理解を進めると良いと思います。また、生活単元学習については、もう一步踏み込んだ解釈がありますので以下に見ていきましょう。

3. 生活単元学習における「単元学習」とは?

以下の資料は、新・埼玉県教育課程編成要領に掲載される内容です。元文章は岡山の教育課程資料です。

『各教科等を合わせた指導である生活単元学習における単元については、通常の教育における単元を踏まえたうえで、知的障害を併せ有する児童生徒の学習をより効果的にするために発展してきた歴史的な経過がある。生活単元学習における単元とは、「計画-準備-実施-反省-再計画」の一連の活動のまとまりのことであり、知的障害を併せ有する児童生徒の学習の特性を踏まえたうえで生活に根差した題材を用いて構成される。』

波線の部分、超重要です。「生活単元学習における単元とは、「計画-準備-実施-反省-再計画」の一連の活動のまとまりのこと」だと。また、生活単元学習を実施するに当たって、「先生」は「共同生活者」として位置づけられるので、子どもたちと計画をして、子どもたちと準備をして、子どもたちと実施をして、子どもたちと反省をして、子どもたちと再計画するものという理解になります。なので、例えば「カラオケ」という教材を使って単元学習を構成するしたら、①「どんな歌を歌いたい? (計画)」-②「アンプを持ってこよう (準備)」-③「歌おう (実施)」-④「どの歌が楽しかった? 何の歌が足りなかった? (反省)」-⑤「次はどうしたい? (再計画)」と構成していきます。

4. 生活単元学習はどんな力をつけることを想定しているの?

ちなみに「生単」ってどんな資質・能力を育む学習?と躊躇している人は全県的にい一っぱいいるので、今回の埼玉県編成要領では「生単で育む資質・能力」を明記しました(私が担当した部分です)。

『「各教科等を合わせた指導」は、①児童生徒の生活と密接に関係する様々な内容のまとまりを、生活に結びつく実際的・体験的な活動や問題解決の中での「主体的・対話的で深い学び」の実現を通して、現実の生活に生きる力として育むことや、②教科別の指導の中で身に付けた「知識及び技能」を、実際的・体験的な活動や問題解決の中で用いて「何ができるのか」「どのように使うのか」まで発展させ、「生きて働く知識及び技能」として位置付けていくといった、①⇒②、②⇒①という相補的な考え方の下に行われる指導である。そこでは必然的に「思考力、判断力、表現力」が働き、また、学びを社会やよりよい人生に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」も必要となる。つまり、「各教科等を合わせた指導」は育成を目指す資質・能力の三つの柱を三位一体として扱う中で「生きる力」の具現化を図る指導の形態である。』

要するに、各教科等に分けていくことができないような、生活丸ごとの豊かな体験活動や問題解決学習のなかで、現実生活に生きる力を付けていく事や、例えば国語・算数で付けた「お金の計算」とかの力を、コーポニツ宮店に行って発揮して、校門の外でも使える力に昇華していくという相互補完的な2本立ての資質・能力を通して生きる力の育成を生活単元学習という指導形態ではねらっています。

5. 自立活動はなぜ「主題」というのか?

自立活動で取り扱う指導内容は、その子の生活上・学習上の困難の克服・改善を目指すものです。その子の調和的な発達を促す内容であったり、各教科等の学習の土台形成に関わる内容だったりしますが、内容がその子の生活や学習の参加状況の不全に関するピンポイントの課題になるために「単元学習」でも「題材学習」でもなく「主題名」に基づいた学習となります。主題ってその子にとっての「タイトル」や「テーマ」のことなのです。

まとめ 生単でも題材学習に留まっちゃう場合もあるし、教科でも横断的に単元化することができます。